

※工兵第16連隊は現在の桃陵団地の敷地にありました（地図範囲外）。

陸軍第16師団は明治38年に創設され、深草の地に司令部が置かれました。師団司令部を中心に歩兵連隊・野砲兵連隊・騎兵連隊（後に搜索連隊）・工兵連隊・輜重兵連隊・憲兵隊が駐屯し、その他に連隊区司令部、陸軍病院、射撃場、練兵場、拘禁所、兵器支廠、陸軍墓地といった施設も造られていきました。第16師団は日中戦争に参加、太平洋戦争ではフィリピン攻略戦に参加しましたが、昭和19年10月、レイテ島にて壊滅しました。

※レイテ島での最終時の所属部隊（括弧内は編成地）  
 歩兵第9連隊（京都）・歩兵第20連隊（福知山）・歩兵第33連隊（津）・野砲兵第22連隊（京都）  
 搜索第16連隊（旧騎兵第20連隊・京都）・工兵第16連隊（京都）・輜重兵第16連隊（京都）  
 ○師団直轄部隊  
 通信隊・兵器勤務隊・衛生隊・第1野戦病院・第2野戦病院・第4野戦病院・病馬廠・防疫給水部



①京都憲兵隊敷地境界杭



②輜重兵第16連隊正門・歩哨舎



③第19旅団司令部



④藤森神社歩兵第9連隊碑



⑤京都陸軍病院行啓碑



⑥第三軍道柵柱



⑦軍人湯



⑧騎兵第20連隊碑・馬繫柱



⑨藤森駅(旧師団前駅)



⑩第16師団司令部庁舎



⑪京都偕行社・正門



⑫師団橋・工兵第16大隊碑



⑬師団街道・第一軍道標識



第16師団長官舎(滅失)



陸軍京都兵器支廠倉庫(滅失)

- ①京都憲兵隊敷地境界杭・・・現在の伏見税務署の敷地にありました。敷地南西角に「陸軍用地」と刻まれた境界杭が残されています。
- ②輜重兵第16連隊正門・歩哨舎・・・輜重兵は武器・弾薬・食料等の補給を行う部隊です。現在の京都教育大学付属高校の敷地にありました。正門と歩哨舎と陸軍境界杭が現在の位置に移設されています。また、京都教育大学側の敷地には厩と言われる建物が残されています。
- ③第19旅団司令部・・・旅団とは歩兵連隊2つからなる部隊です。洋館の庁舎が現存し、京都教育大学の教育資料館として使用されています。
- ④藤森神社歩兵第9連隊碑・・・現在の京都教育大学の敷地にありました。当時の遺構はありませんが、藤森神社内に昭和43年建立の記念碑があります。
- ⑤京都陸軍病院行啓碑・・・現在の京都医療センターの敷地にありました。昭和16年に当時の皇后陛下が行啓した際の記念碑が残されています。
- ⑥第三軍道柵柱・・・師団司令部設置の際に整備された東西道路の一つで、当時の石製の柵柱が残されています。
- ⑦軍人湯・・・大正時代に創業した銭湯で、16師団関係の軍人さんを相手に商売されていた名残が店名に残されています。
- ⑧騎兵第20連隊碑・・・現在の深草中学校と周辺の住宅地の敷地にありました。住宅地に昭和50年建立の記念碑と当時の馬繫柱が残されています。
- ⑨藤森駅・・・元々は「師団前」という駅名でした。昭和16年に師団司令部の位置を表す駅名は不都合との理由で、現在の藤森駅に改称されました。
- ⑩第16師団司令部・・・明治41年築の煉瓦造の庁舎が残されており、国登録有形文化財となっています。現在は聖母女学院本館として使用されています。
- ⑪京都偕行社・正門・・・偕行社とは師団における陸軍将校の社交倶楽部です。当時の建物が愛徳修道会の建物として使用されています。また煉瓦造の正門もそのまま残されています。
- ⑫第二軍道・師団橋・・・第二軍道は師団司令部に通じる重要な道路でした。琵琶湖疏水に架かる橋は師団橋と呼ばれ、橋桁に現在も陸軍の星章が残されています。また、師団橋の西詰には石製の柵柱と工兵第16大隊の師団橋架設を記念した当時の石碑があります。
- ⑬師団街道・第一軍道・・・師団司令部設置の際に整備された道路で、現在も当時のままの師団街道・第一軍道の道路名が使われており、交差点には、「師団街道・第一軍道」の標識が建てられています。
- ※第16師団長官舎・・・京都偕行社の東側にありました。1999年に解体。跡地は住宅地となっています。（1995年撮影）
- ※陸軍京都兵器支廠倉庫・・・16師団の武器弾薬を管理していた所で、警察学校の敷地にありました。敷地南側に倉庫が残されていましたが、1999年頃に解体。（1995年撮影）

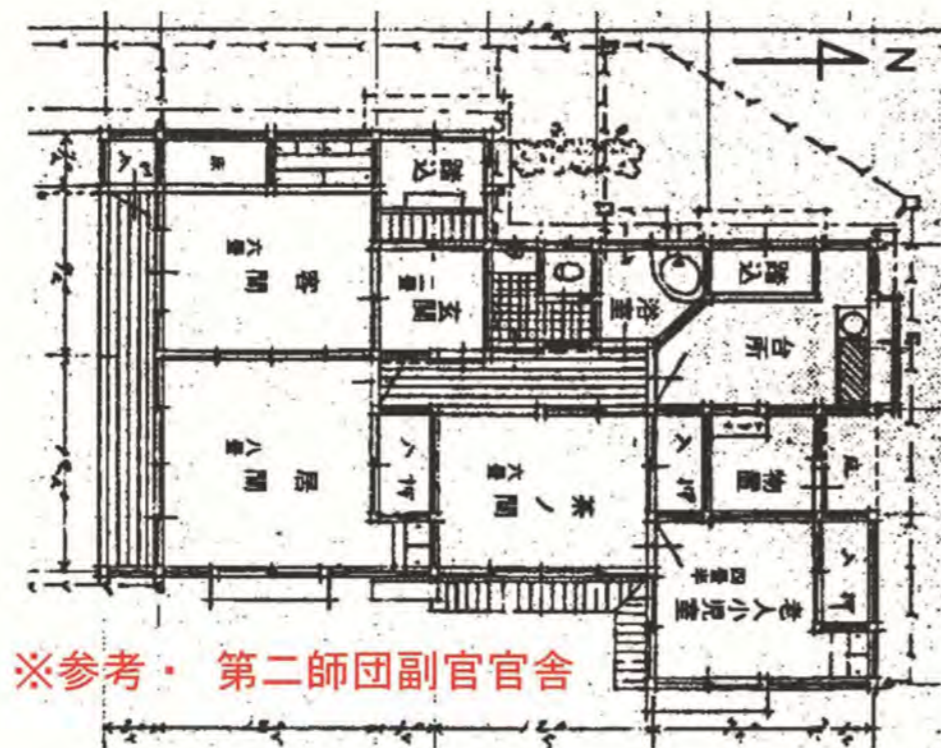
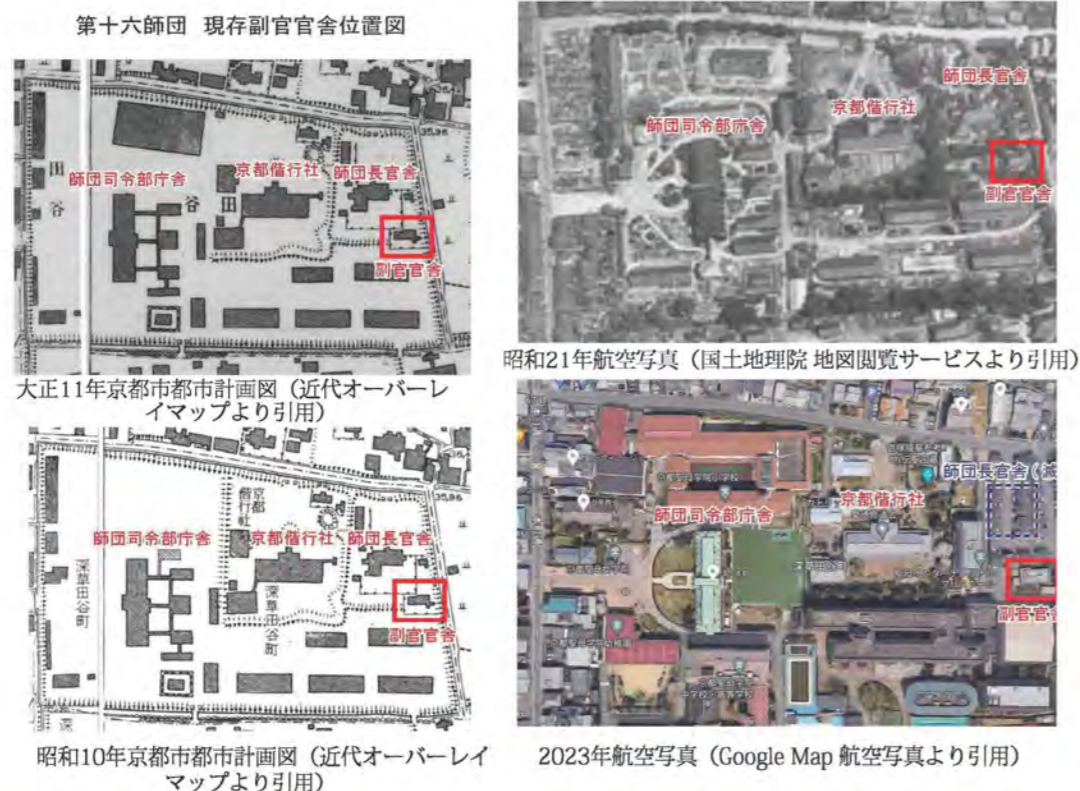


# 第4回身近な京都を知る歴史散策（伏見 藤森・墨染地区） 戦争遺跡を巡る①

主催：特定非営利活動法人平安京調査会  
<https://heiankyo-tyousakai.com>

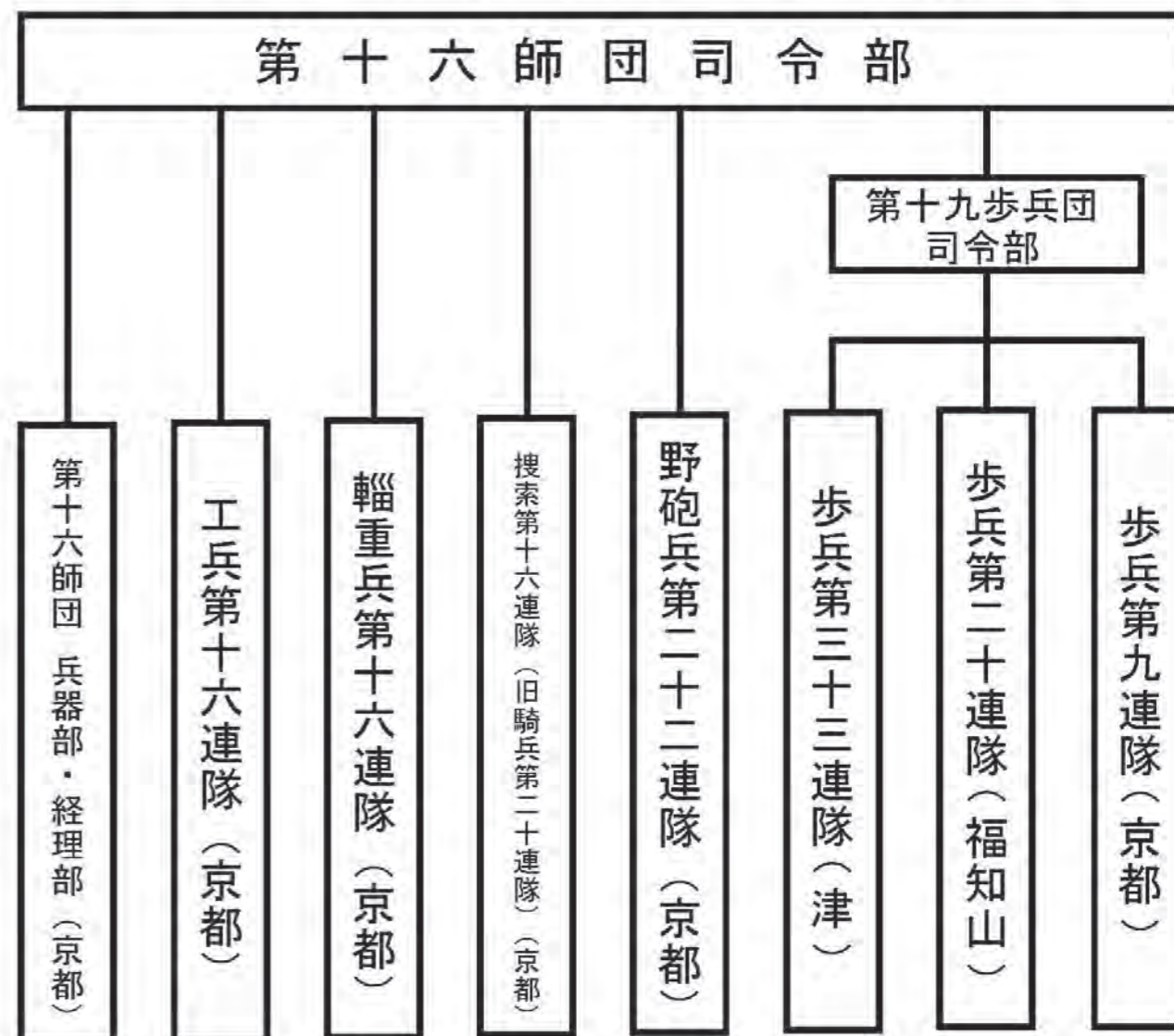


## 第十六師団副官官舎について



※参考・第二師団副官官舎

## 第十六師団編成表（昭和16年9月改編時）



※その他、師団には直属の通信隊・衛生隊があった。憲兵隊は別組織。

※師団は独立して軍隊行動が取れ、作戦を遂行できる軍隊の単位である。

師団・・・約1万人～2万人。師団長・陸軍中将。 ※師団長は新補職（天皇による直接の任命）

旅団・・・約 3000 人（2個歩兵連隊）～ 4500 人（3個歩兵連隊）。旅団長・陸軍少将。

連隊・・・約 1500 人。連隊長・陸軍大佐。

※連隊は連隊本部と2個大隊で編成され、大隊は4個中隊、中隊は4個小隊、小隊は4個分隊から構成される（平時）。

大隊・・・約 600 ～ 700 人。大隊長・陸軍少佐。

中隊・・・約 160 人。中隊長・陸軍中尉（または大尉）。

小隊・・・約 40 人。小隊長・陸軍少尉（戦時には曹長の場合もあり）。※少尉以上が将校。

分隊・・・約 10 人。分隊長・陸軍伍長。